

仕様リスト

1. 超音波診断装置本体

- 1 - 1 装置本体の概要に関し、以下の特徴を持っています。
- 1 - 1 - 1 本体寸法は、幅406mm、奥行59mm、高さ348mmであること。
- 1 - 1 - 2 本体の重量は6.3kg以下であること。
- 1 - 1 - 3 高さ調整が可能な専用のカートを有すること。
- 1 - 1 - 4 15.6インチの LCD 高解像度カラーモニタを有すること。
- 1 - 1 - 5 本体にSSDを内蔵していること。
- 1 - 1 - 6 装置本体は充電式バッテリーを標準装備し、約2時間駆動することが可能であること。
- 1 - 1 - 7 バッテリー稼働時間を時・分および色で分類し表示可能であること。
- 1 - 1 - 8 システムの起動は7秒であること。(スリープ/スタンバイモードより)
- 1 - 1 - 9 プローブの読み込みは3秒以下であること。
- 1 - 1 - 10 走査方式はコンベックス電子走査、リニア電子走査、セクタ電子走査であること。
- 1 - 1 - 11 3プローブポートを有すること。
- 1 - 1 - 12 Bモード法、Mモード法、カラードプラ法、パワードプラ法、連続波ドプラ法、ティッシュドプラ法が表示可能であること。
- 1 - 1 - 13 フルタッチスクリーン仕様で、手指で操作が可能であること。
- 1 - 1 - 14 1-1-13において、医療用手袋を装着したままスクリーン操作が可能であること。
- 1 - 1 - 15 1-1-13において、指でカラーROI範囲の拡大縮小、位置の移動が可能であること。
- 1 - 1 - 16 凹凸のないモニターで、クリーニングモードを有しモニターを清掃することができること。
- 1 - 1 - 17 プローブケーブルが床につきにくい設計であること。
- 1 - 1 - 18 USBメモリに、静止画および動画像の保存が可能であること。
- 1 - 1 - 19 画像の保存形式はJPEG、AVI / WMVであること。
- 1 - 1 - 20 前回検査時の画像調整パラメータと同じ設定にする機能を有していること。
- 1 - 1 - 21 パノラマビューでスキャンできる機能を有していること。
- 1 - 1 - 22 画像になる前のRaw DATA(生データ)管理機能を有していること。
- 1 - 1 - 23 DICOM3.0に準拠していること。
- 1 - 1 - 24 1-1-32にて、有線で接続可能であること。
- 1 - 1 - 25 1-1-32にて、無線で接続可能であること。
- 1 - 2 Bモードに関して以下の仕様を満たすこと。
- 1 - 2 - 1 表示深度は最大36cmであること。
- 1 - 2 - 2 複数の異なる方向への超音波ビームの送受信により、境界や組織を明瞭にするコンパウンド機能を有すること。
- 1 - 2 - 3 画像情報を増やし、平均化処理を行うフレームアベレージ機能は6段階の選択が可能であること。
- 1 - 2 - 4 超音波画像の画質劣化の要因となる斑点スペckルノイズを低減し、高画質の画像を得るアルゴリズムを搭載すること。
- 1 - 2 - 5 リニアプローブにて遠位部のFOVを拡大して表示できること。
- 1 - 2 - 6 穿刺針の視認性を高める機能を持つこと。
- 1 - 2 - 7 1-2-7にて、針のゲインの調整が可能であること。
- 1 - 2 - 8 1-2-7にて、超音波ビームの角度調整が可能であること。
- 1 - 3 Mモードに関しては以下の仕様を満たすこと。
- 1 - 3 - 2 任意方向にビームを挿入し、Mモード画像を描出することが可能であること。
- 1 - 3 - 3 Mモードトレース上にカラーを重ねて表示することが可能であること。

1	-	4	カラーモードに関して以下の仕様を満たすこと。
1	-	4 - 1	フレームアベレージは最大11段階設定可能であること。
1	-	4 - 2	カラーマップは最大6タイプ有すること。
1	-	5	パワードプラモードに関して以下の仕様を満たすこと。
1	-	5 - 1	PDIマップは5タイプ有すること。
1	-	5 - 2	カラー/PDI周波数は2段階以上切り替えることが可能であること。
1	-	6	パルス(PW)/連続波ドプラ(CW)モードに関して以下の仕様を満たすこと。
1	-	6 - 1	SVゲートは最大16mmであること。
1	-	6 - 2	表示フォーマットは5種類であること。
1	-	6 - 3	パルストプラ/連続波ドプラ表示画像のデータをワンタッチで解析し、最適なドプラ波形が得られるASOを有すること。
1	-	7	計測機能に関し、以下の仕様を満たすこと。
1	-	7 - 1	Bモードにて、距離/周囲長(ellipse/trace)/面積 (ellipse/trace) / 角度/ %狭窄 /ratios / プローブ表面からの距離を計測できること。
1	-	7 - 2	Mモードにて、距離/時間/ 傾き/心拍数 を計測できること。
1	-	7 - 3	ドプラモードにて、速度/ 頻度 /時間 / 加速度/心拍 / Auto Doppler Trace function / Time averaged max/mean velocity /Ratios / PI (Pulsatility Index) / RI (Resistivity Index) を計測できること。
2			プローブ
2	-	1	表在用リニアプローブは以下を満たすこと。
2	-	1 - 1	周波数帯域は3.0～20.0MHzであること。
2	-	1 - 2	視野幅は38mm以上であること。
2	-	1 - 3	プローブにボタンを配置し、そのボタンで超音波診断装置の基礎操作ができること。
2	-	1 - 4	プローブにあるボタンには、ユーザーが超音波診断装置の操作を割り当てることができること。
3			記録機器
3	-	1	白黒プリンターの仕様は以下を満たすこと。
3	-	1 - 1	印刷方式は感熱方式であること。
3	-	1 - 2	階調は256階調以上であること。
3	-	1 - 3	本体パネルから操作可能であること。